

美を救ふ接合その中に萱小葉の刈り下る
を包こ大縄して結ぶ一本の松明は刈り下
つむ事子なる二十三条^{之把を二}は時飯乃
~~握~~握るを両方より扱あふとを~~除~~除るの事
は大堂より人足十二人二本の松明は火縄
を付双方競て引出—廣庭より押立競松明
とて列進三先達より隔年に出—石垣乃
急に火を付て立至その百松明といふを
こよ持出二手に火を付令執む事暫—火
を天を衝て一山白日の如と—山伏五人色

この松明—競松明の下に出一人を所司と
稱—又定天に人を召者と号し手を上る是と
下をに移くの掟あり大地を踏望める事
似とそそ後所司定人を召る事定て定
天を并救ふの事を此後をねやといふを
人の後若憲法と著ふ然るに松明東三十三
ヶ國の地檢を改めあふは然なりといふ事と
時を位上といふは伊上より—て伊豆より上
といふ心より先及ハ山及より又その後火打
として男二人女のことく化粧—志さる事と